

## 【参考資料 2】

### 他部会委員から提出のあった第 2 部会への意見について

1 生物多様性について ※この意見は、第 1 部会にも提出されています。	
A「現状と課題」	
B「目指すべきまちの姿」	生物多様性の視点を加え、「都市のみどりや水辺で多様な動植物が生息・生育している」等の姿を記載してほしい。
C「取組の基本的な方向性など」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これからは緑被率の向上に加え、生物多様性や生物資源の観点を入れた、みどりの質の向上が重要となる。都市における生物多様性や生態系の保全には、緑地の継続的な維持管理と調査・モニタリングを、区民レベルで取り組む仕組みの構築が必要になると考える。</li> <li>・中でも農地には生物資源の保全・活用の役割がある。後継者不足が課題になっているが、市民農園や農業体験のニーズは高いため、両者のマッチングを円滑に進めるべく、現状の法的枠組で可能な取り組みを進められるようにしたい。</li> <li>・基本的な情報資料として、現行の「杉並区緑地保全方針」を提示して頂きたい。</li> </ul>
2 その他生活環境について	
A「現状と課題」	大気汚染、水質汚濁、騒音等の環境基準を超過している地域は区内にまだまだ多く、基本的な生活環境が確保されているとは言い難い。さらに近年の都市型環境問題として、ヒートアイランド、熱中症、ビル風害なども顕在化しており、これらへの対策も課題になっている。
B「目指すべきまちの姿」	「大気や水など、良好な生活環境の元で健康的な区民生活が営まれている」等の基本的なまちの姿を外さないよう記載してほしい。
C「取組の基本的な方向性など」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大気汚染、騒音、CO<sub>2</sub>の環境影響要因として、自動車交通による負荷はかなり大きい。新型コロナで公共</li> </ul>

	<p>交通が敬遠されマイカーへの移動手段のシフトが起きかねない中、MaaS (Mobility as a Service) 等の新技術を活用した公共交通のシームレス化と徹底した感染症対策で、マイカーシフトを防ぐことは、大気汚染・騒音やCO<sub>2</sub>削減など環境面にとっても大変重要な取り組みである。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・コロナ禍で自転車や徒歩を見直す機運もあり、環境・健康面にとってはプラス側面に働く。第1部会で議論された、徒歩・自転車・公共交通を組み合わせた移動の利便性や質の向上について、環境面からも後押しして頂きたい。</li></ul>
--	--